

人間社会学部における教育研究上の目的と三つの方針

1. 人間社会学部の研究教育上の目的

人間社会学部は、教養科目並びに専門科目に関する教育・研究を通して、幅広い視野を持ち専門分野を深く探求し、知的・道徳的に優れた能力を兼ね備えた人格を育成し、国際社会や情報化社会の発展に貢献する人材を養成することを目的とする。

2. 人間社会学部の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

経営、情報、文化、メディア、デザイン、心理学の分野に強い興味や関心を持ち、自ら積極的に学んだ知識、技能を用いて社会の発展に貢献できる希望と意欲をもつ学生を受け入れる。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

経営、情報、文化、メディア、デザイン、心理学などの分野におけるスペシャリストを養成するため、教養科目と専門科目、および講義科目と実験、実習、演習などの科目間バランスを考慮したカリキュラム体系の下、基礎から応用にいたるまで十分な知識を教授する。

3) ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

将来、それぞれの専門分野において活躍する上で基礎となる知識を修得し、さらに問題解決力、プレゼンテーション力、探究心、倫理観など社会で要求される力を身につけた学生に対し、学士の学位を授与する。

3. 情報社会学科の教育研究上の目的

情報社会学科は、高度に情報化した知識基盤社会に対応できる情報リテラシーを身につけるとともに、学際的な学びを通して社会の変化に対応できる幅広い知識と教養を習得し、現代社会における諸問題を様々な角度から分析・解決できる、個性豊かな人材を育成することを目的とする。

情報社会学科は、IT 経営専攻とメディアデザイン専攻を設置している。各専攻の目的は次のとおりである。

【IT 経営専攻】

経営全般にわたる専門知識を修得し、情報技術を活用する能力を身につけ、企業社会における企画・営業から開発・生産に至るビジネスのサイクルの各場面で、自ら課題を発見し、解決策を考え、実践する人材の養成を目的とする。

【メディアデザイン専攻】

デジタル技術に基づく専門知識や制作技能、デザイン能力を総合的に学ぶことによって、情報化社会に対応したコミュニケーション力、社会課題を解決していく能力、情報技術に精通した高い表現能力を有する人材を養成することを目的とする。

4. 情報社会学科の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

情報社会学科では、幅広い教養と知識、情報を扱う能力を身につけ、それらを活用して社会に貢献できる人材の育成を目指している。このため、本学科では社会の様々な分野において、自ら課題を発見し解決することを通じて変化の激しい現代社会に対応し、主体的に活動することができる以下の適性を持つ入学学生を求めている。

＜知識・技能＞

- 情報社会学科の学びに必要な基礎知識(情報処理、言語能力等)を身につけている。
- 情報社会学科の学びに必要な情報、経営、社会科学、メディア、デザインに関連した教育に十分対応できる能力を有している。
- 経営全般にわたる専門知識を修得し、現代社会の様々な課題に立ち向かっていきたい人。
- 情報技術に関する専門的な知識、技能を活かした表現活動をしたい人。
- デザインに関する専門的な知識や技術を習得し、デザインを通じた課題解決をしたい人。
- 情報化社会に求められる教養、知識を身につけ、社会で活用したいと考えている人。

＜思考・判断・表現＞

- 自分の考えや他者の考えに対する位置づけを明確に説明することができる。
- 基本的な文章理解力と文書作成能力を身につけている。
- 基礎学力とコミュニケーション能力を有している。

＜主体性・意欲・協働性＞

- 情報技術、経営、デザイン、コンテンツ制作に強い興味と関心がある。
- 情報技術や社会科学分野について継続して学習する意欲がある。
- 論理的に探究して積極的に成長を求める精神を有している。
- 身につけた教養や専門知識を活かして社会に貢献しようとする意欲がある。
- 連帯感を持ち、仲間と協力して協働的に物事を進めることができる。

＜入学選抜＞

- 情報社会学科においては、以上の資質・適正・能力等を総合・多面的に評価するため、総合型選抜入試・一般選抜入試・大学入学共通テスト利用入試・学校推薦型選抜入試・特別選抜入試等の多様な入学選抜を実施する。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

＜教育方針＞

- 情報社会学科では、経営全般にわたる知識や情報技術を総合的に学ぶ IT 経営専攻と、デジタル技術に基づく専門知識やコンテンツ制作能力、デザイン能力を総合的に学ぶメディアデザイン専攻の2つの専攻を設けている。情報社会学科のカリキュラムは、情報化社会に必要となる専門知識を修得し、多様な領域に目を向けることのできる能力を育成するため、文系と理系分野を横断した専門・教養科目、卒業後の進路選択を支援するキャリア・デザイン科目を設けている。

＜教育内容・方法＞

- 学生一人ひとりの進路選択にあわせて、専門的な知識・技術を効果的かつ柔軟に学べるようにカリキュラム編成されている。1年次には大学での「学び」への移行を円滑にするため、少人数クラスの演習科目を開講し、大学における学び方を身につけるための基礎を学ぶ。2年次には社会において不可欠なコミュニケーション能力、問題発見・解決能力、情報活用力、社会人基礎力を身につけるため、情報技術と社会科学分野の教養と専門科目を体系的に修得することを目指す。3年次の演習においては、指導教員による個別指導を通じて専門的な知識や技術を深めるため、専攻制はフレキシブルに運営されており、所属する専攻以外の科目も自由に履修することができる。4年次の情報社会総合演習Ⅰ・Ⅱでは、情報社会学科で学んだ幅広い専門知識や教養をもとにした研究課題に取り組んでいる。
また、情報社会学科の総合的な学習を活かして、高等学校（情報・公民）・中学校（社会）教諭免許状の取得希望者のための指導を行っている。

＜評価＞

- 各科目の単位修得と達成目標を明確にし、情報社会学科の教養科目と専門知識の修得状況を評価している。最終学年で実施する卒業研究では、研究結果を卒業論文にまとめ、卒業研究発表会において口頭発表を行い、卒業論文の審査および複数の教員からの質疑応答を通して、学生の理解度、思考力、判断力、問題解決力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を評価している。

3) ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

現代の情報化社会に必要な知識・技術を修得し、建学の精神である使命感・人生観・連帯感を有した以下の要件を満たす学生に対して、学士(教養学)の学位を授与する。

＜知識・理解＞

- 経営学、情報学、メディア、デザインに関する専門知識とその応用力を有する。

＜汎用的技能＞(プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力、問題解決能力)

- 自分の考えや質問の答えを論理的に明確に説明できるプレゼンテーション能力を有する。
- 多様な情報を収集、分析し、自ら判断、表現する能力を有している。
- 専攻分野の専門知識、技能を活かして実社会で活用する能力を有している。
- 情報化社会に必要とされる高いコミュニケーション能力と問題発見・解決能力を有している。

＜態度・志向性＞(人間性、意欲、自己管理力、チームワーク、倫理観・社会的責任)

- 豊かな教養を持ち、深い人間性を有する。
- 情報技術や社会問題に関心を持ち、社会や産業の発展に貢献する意欲を有している。
- 各専攻分野の専門知識、技能を自主的に身につけ、他者と連携・協力して課題に取り組むことができる。
- 新しい知識や技術を自主的に身につけ、未解決の問題に計画的に取り組むことができる。
- 情報化社会に必要とされる高い倫理観と社会的責任を有している。

＜総合的な学習経験と創造的思考力＞

- 情報社会学科で学んだ幅広い専門知識や教養を活用し、社会の要求に対応するための創造的な思考および実践ができる。

5. 心理学科の教育研究上の目的

心理学科は、人間の心を科学的に解明する教育・研究を通して、人間の心を深く理解し、豊かな個性と教養を身に付けた、社会に貢献する人材を養成することを目的とする。

心理学科には、ビジネス心理専攻と臨床心理専攻とが設置されている。各専攻の目的は次の通りである。

ビジネス心理専攻は、心理学とともに、データを活用する技法や社会科学の知識を身に付け、ビジネスや社会生活における課題に客観的・科学的に対応できる人材を養成することを目的とする。

臨床心理専攻は、臨床心理学に関わる多様な実習・演習を通じて、「心の問題」に関わる知識と技能で人と社会を支えることのできる人材や、臨床心理学の専門職に就く人材を養成することを目的とする。

6. 心理学科の3つの方針

1) アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れ方針)

心理学科では、教育研究上の目的を実現するために、以下のような人材を広く求めている。

＜知識・技能＞

- 高等学校等における教育課程を広く履修して、心理学科での学びに必要な基礎学力（国語・英語・数学など）を身に付けている。
- 心理学科での学びに必要な基礎的技能（言語・数・情報などを扱う力）を身に付けている。

＜思考・判断・表現＞

- ものごとを合理的に考えて評価し判断する力を身に付けている。
- 自分の考えや意見・判断を他者に明確に説明することができる。

＜主体性・意欲・協働性＞

- 人間の心を科学的に理解する心理学に強い関心をもち、積極的に学ぶ意欲がある。
- 身に付けた教養や専門的知識・技能を活かして、社会に貢献する姿勢を有している。
- 他者の価値観を尊重しながら、仲間と協調して物事を進める姿勢を有している。

【ビジネス心理専攻】

- 心理学に加えて、データを活用する技法や、社会科学の知識を積極的に学ぶ意欲がある。
- 身に付けた知識と技能とを活かして、ビジネスや社会生活における課題に取り組む姿勢を有している。

【臨床心理専攻】

- 公認心理師などの資格取得を考え、演習および実習などへの積極的な参加を通じて、主体性を持って学ぶ意欲がある。
- 臨床心理学の専門知識を活用して、人と社会の「心の問題」を支援する姿勢を有している。

＜入学者選抜＞

- 心理学科においては、以上の資質・能力等を総合的・多面的に評価するため、総合型選抜・一般選抜・学校推薦型選抜・特別選抜で入学者選抜を実施する。

2) カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

＜教育方針＞

心理学科では、ビジネス心理専攻と臨床心理専攻の両専攻において、それぞれ体系的で段階的なカリキュラムが編成されている。臨床心理専攻においては、公認心理師となるために必要な科目が配置されている。2つの専攻の4年間を通じての学習・教育目標と授業科目の配置を概観するために、カリキュラムツリーが作成・公開されている。

＜教育内容・方法＞

教養科目には、社会人に必要とされる教養と技能を身につける科目が配置されている。オーラル中心の習熟度別少人数クラス制である英語科目をはじめ、情報系科目やキャリア・デザイン科目、自然科学・人文社会科学等の多彩な講義科目が配置されている。

専門科目には、心理学の専門知識を広く深く学ぶための演習科目と講義科目が、入門的な科目からより専門的・応用的な科目へと段階的に年次配当されている。専門科目には、データサイエンスに関わる科目や、社会科学に関わる情報社会専門科目も含まれている。

1年次には、講義科目である「心理学概論」と「心理学統計法」、少人数クラスで大学における学習の技法を学ぶ演習科目である「基礎演習」を中心に、心理学を学ぶために必要な基礎知識を身につける。

2年次から4年次にかけて、ビジネス心理専攻には、エビデンスに基づく判断と社会における応用の力を身につける専門科目、臨床心理専攻には、心の問題のプロフェッショナルになるための専門科目が配置されている。

2年次には、班別の演習科目である「心理学実験」と「心理演習」において、各種の心理テストや心理学実験を体験学習し、データの採取や分析、学術的レポートの書き方といった、心理学研究を進めるために必要な技能を実践的に学ぶ。

3年次には、全員が少人数ゼミに所属し、演習科目である「一般実験演習」において、指導教員の指導の下に、専門的な心理学研究の技法を深く実践的に学ぶ。臨床心理専攻のカリキュラムには、医療・福祉施設等における学外実習科目である「心理実習」が配置されている。

4年次には、演習科目である「総合研究演習」において、未解決の問題を自ら見出して探求するアクティブラーニングを実践し、卒業研究を行う。

<教育評価>

各授業科目の学修到達目標および達成度評価の方法と基準は明確に策定して提示する。学生の各授業科目の評価や単位修得状況、GPA等を調査して、教育課程全体における学修到達状況を明示する。

卒業研究報告書については、その水準と内容を学科教員全体で評価することで評価の公平性を担保するとともに、ディプロマ・ポリシーに示した学位授与の要件が満たされたどうかを判断する。

3) ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)

心理学科のビジネス心理専攻と臨床心理専攻では、現代社会において必要な一般的教養、専門的知識・技能を修得し、建学の精神である使命感・人生観・連帯感を有した以下の要件を満たす学生に対して、学士(心理学)の学位を授与する。要件の確認は、「卒業要件」に示された単位の修得により行う。

<知識・理解>

○ 心理学に関する専門知識と基本的技能を身につけ、その応用力を有する。

<汎用性技能>

○ 社会人に必要とされる一般的教養と技能を有する。

○ 他者と協働して問題解決にあたることのできる高いコミュニケーション能力を有する。

○ 社会生活における課題を科学的にとらえて思考し、対応する力を有する。

○ 社会生活における「心の問題」に対処できる実践能力を有する。

<態度・志向性>

○ 人の心を深く理解し、自らを律して行動し、他者と協調することができる。

○ 人間の心や社会の問題に対し、エビデンスに基づき判断し、対処する態度を有する。

○ 心理学の知識と技術を用いてビジネスや社会生活の課題解決に意欲的に臨むことができる。

○ 心理学の知識と技能を用いて人や社会に貢献する意欲を有する。

○ 「心の問題」の専門家になるための倫理観や責任感を有する。

<総合的な学習経験と創造的思考力>

○ 心理学科で学んだ専門知識や教養を活用し、社会生活の問題や「心の問題」に対応するための創造的な思考および実践的能力を有する。